



● 城東地区 ●
1917 世帯
男 1804 人
女 1940 人
合計 3744 人
H 29.3.1 現在

**人権啓発講座
『男女共生について』が開かれました**

2月8日、加藤晋一郎氏(北上横田町会長)を講師にお迎えして、城東地区人権啓発推進協議会と城東公民館の主催により、第3回人権講座が開催されました。



人権啓発講座の様相

はじめに、男女共生とは何かの説明がありました。男性と女性が共に生きることであるが、現実はそのようになっていない。男女共同参画基本法は建前論となっている。現在、日本では国会議員のうち女性議員の割合は衆議院約10%、参議院約16%と低く、世界の中では150位前後。



国連では女性議員数の目標を3割としており、既に33カ国が達成しているというの国連への回答は「ゴー・アヘッド・タイムテーブルの進めます」というもの。時間割を決めて進めていきますとは、あまりにも消極的である。人口の半分を占める女性の民意を広く集めるためにも、女性議員の割合を高めていくことが求められる。そして、大きな社会の仕組みや、何か大切なことを決める時には、女性の意見を聞く必要があると指摘されました。

後半では、先生のユーモラスな語り口に魅了されました。永い間の職業体験やご家族の介護体験等から次のように提言されました。

- ◆男女の区別はあってもいいが、差別はいけない
- ◆男女間に格差が生じないよう、一方に対して不利益にならない

◆相手不満を抱かないよう心を砕くこと
◆家族間であつても物事を相談して決め、共に生きていく姿勢であること

最後に、この地域においても皆で仲良く、相談し合つてよりよい社会を創つて行きましよう」とまとめられました。(増田)

**地域包括ケアシステム
町会説明会を終えて**

町会説明会を7月4日から12月18日にかけて12町会実施しました。町会長さんや民生委員さんをはじめ、地域の方にご出席いただき大変ありがとうございました。

「地域包括ケアシステム」とは、地域の実情に応じ、高齢者が自宅で生活出来るよう、医療・介護・生活支援等を一体的に行うもので、平成26年10月にケア会議を始め、今年度は町会別説明会を行いました。

説明会では、超高齢社会の到来により、地域で安心して暮らし続けることが難しい時代に成りつつあり、医療、介護については、地域包括支援センターが窓口になっていることを紹介しました。

また、地域の方が支え合うことが出来ないものか、実際



地域ケア会議の様相

の困りごとをお聞きして今後のシステムづくりの課題抽出を行いました。

生活支援として多く出された困りごとは、除雪、買物の車の運転、ゴミ出しなどでした。また、災害時や日常の安否確認など個人情報取扱いやプライバシーなどの関係で、難しい問題がありました。一人暮らしの方や長時間お一人である方等の急変時に、関係者が何処に連絡したらいいのか分からないこともあります。

社協や民間で行っている有償サービスの利用もあります。が、近所での見守りは今後必要なことと思われれます。

一方、介護の必要な方を増やさないため、介護予防を進めることが非常に重要です。

町会での身近なお茶会や健康づくりの行事、近所の散歩など健康維持のための活動が大切です。隣近所お声掛けをして参加していただきたいものです。



消防署職員による講習

城東地区防災訓練

3月5日(日)、各町会の一時的集合場所である、旭町・清水後、中学生の先導により、医療救護所である、旭町・清水中学校へ負傷者を搬送する訓練が行われ、約620名が参加しました。また、救護所では、消防署職員による心肺蘇生訓練等が行われました。

1月26日に行われた城東地区地域ケア会議では、町会ごと課題を書き出してまとめて『見える化』すること。なかあつた時に、誰に連絡をするかを特定の方に知らせておき、速やかに対応できるシステムづくりに取り組むことを確認しました。今後、関係者と調整を進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

(地域づくりセンター長 小林)

研究集会に参加して



松本に公民館ができて70年、昨年第31回を終えた「松本市公民館研究集会」の取組み経過を活かしながら、第3回となる全国大会「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究集会」が1月28(土)29(日)に松本市芸術館とMウイングで開かれました。

初日は、過去2回の集会振り返り、パネルディスカッション、全国リレートークが行われました。

そのなかで、なぜ第1回全国大会は飯田市で開催されたのか疑問が浮かびました。

飯田大会のまとめの記事には、飯田の人は公民館を利用するとは言わず、公民館をやる、やっているといった言い方をし、他人や行政から与えられるものではない、住民の住民による住民のための施設になっている。飯田の公民館にあれば何か仕組みがあり自分のところに持ち帰り、実践できるとありました。

2日目に参加した第8分科会(若者と地域づくり)にその答えがありました。
飯田市・松本市の事例発表

があり、地域では頑張っている人がおり、後継者を育成していること。イベントを若い人に任せ、同じ仲間として扱う。指導はせず、問題提起をして投げかけるなど、人と人のつながり、絆づくり。「人」が重要なキーワードでした。

なぜ今回松本大会なのか? 松本が70年前いち早く公民館活動を取り入れ各町会に公民館をつくってきた事と、ブロック研修などでも挙げた後継者不足等の課題に対し解決の核となる人材育成に取り組んでいるのを評価されたものと感じました。(佐藤)

【お医者さんから】寄り道してみませんか

お医者さんから「健康のために一日七千歩ぐらい歩かないと。」など奨められ、松本城までとか、女鳥羽川土手とか、市体育館までとか、城山まで等、ある程度の目標を定め、歩いてみました。

義務感だけでは長続きしないものです。決められたコース、時間帯により行き会う人も限られ、今日は天気が悪いから、寒い暑いから、体調が悪いからなど。サボる口実はいくらでもあり、挫折で終わること多々あります。

日頃通り馴れた道から、少し目先を変え、地区の域内から足を延ばしてみませんか。一本通りを変えてみるとか、路地や車の入らぬ道などを選び通り抜けてみるのも一興です。

城下町特有の直進不能の道、わざとカギの手を設け、見通しを悪くするなど。戦災や大きな火事にも遭っていないので、昔からの狭い道が数多く、点在しています。一方通行、車通行不可など迷路化し、車には厄介な道が残されています。こんな道も散歩の枝道として組み込むだけで、新しい発見!逆に近道になったりして、思わぬ徳をした気分になります。



鯛萬の井戸

扇状地が生んだ豊かな湧水群がお茶やコーヒー・炊飯などに利用されており、遠方からも汲みに訪れる人で賑わっています。ひと休みして味

わってみては。裏町の鯛萬の井戸・清水西の槻井泉神社の湧水・善哉酒造の女鳥羽の泉・伊織霊水・源智の井戸・大名町大手門井戸・信長脇の井戸・上土東門の井戸・北門大井戸・松本神社前井戸等その他にも幾つか。柄杓や茶わんに手がでる状況にあり、潤いと安らぎの場を提供してくれます。

敵の侵入を防ぎ、防御の為にされる行き違い道路やカギの手道も。一つ橋小路から宮村町へ、中の橋から小池町へ。



一ツ橋小路

袋町にはカギの手の個所が二つもあり、見落とされがちです。徒士町をはさみ田町から堂町など武家屋敷跡との関係からか、くい違う見通せぬ構造になっています。

寺などに通じる道筋も域内に残っており、観音小路・長称寺小路など目新しい発見もありません。



常法寺小路

歩車道の区分が乏しいので、勢い交通量の少ない道を辿ると、狭いので車が入れぬ人道があり、抜けられるとほっとするものです。自転車車の通り道と化したものも多く、通学時間帯には注意が肝要です。

散歩や寄り道で新市街地向かい、うっかり入り込むと袋小路が多く見られ、特に里山辺の小松地区・惣社・大村・岡田松岡地区は要注意です。田畑が宅地化されて、一枚の田畑がそのまま分譲され、家で埋まる形で完結されており、そこいらに原因があるようです。

城下町特有の狭い道・一方通行、これ等をたくみに利用し、街を歩くことが日課となれば嬉しいかぎり、街歩きを満喫しましょう。(土屋)